様式【学校評価資料】

A：達成している，　B：概ね達成している，　C：あまり達成していない，　D：達成していない

総社東小学校

学校経営目標	具体的計画	令和5年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 人を大切にする児童の育成	①教職員の率先垂範と児童会主体の挨拶運動により、気持ちのよい挨拶ができる児童を育成する。（礼儀正しい子供）	①学校評価質問紙（「進んで挨拶」の項目）での肯定的回答の割合 【児童】90% 【保護者】80% （「気持ちのよい挨拶」ができる児童の育成の項目） 【教職員】100%	学校評価質問紙(7月) 【児童】90.9%〇 R4後期比 0.5%↑ 【保護者】78.7%△ R4後期比 4.6%↑ 【教職員】100%〇 R4後期比 →	B	・運営委員会と自主参加の挨拶ボランティアによる朝の挨拶運動を継続し、その取組の様子を学校のホームページや学校だよりで紹介する。 ・運営委員が、気持ちのよい挨拶ができている児童を昼の放送で紹介し、「挨拶きらめきカード」を渡したり、「挨拶スタンプカード」を押したりする期間を設けるなどして、挨拶運動をきっかけにして校内でも進んで挨拶ができる児童を育てる。	学校評価質問紙(12月) 【児童】89.7%△ R5前期比 1.2%↓ 【保護者】79.5%△ R5前期比 0.8%↑ 【教職員】100%〇 R5前期比 →	B	・児童も保護者もわずかに目標値に達しなかったが、R4後期に74.1%と低かった保護者評価が5.4%上がった。次年度も、家庭・地域と連携しながら気持ちのよい挨拶ができる児童を育成していきたい。 ・児童会と自主参加の挨拶ボランティアによる朝の挨拶運動を継続する。（厳寒期・厳暑期は行わない）	・目標値が高いのではないか。
	②児童が認め合う場（目的を明確にしたピア・サポート、SEL、協同学習、異年齢集団活動の機会）を増やすことにより、他へ積極的に関わろうとする児童を増やすとともに、自己肯定感の高揚を図る。（心優しい子供） ③教育相談や毎月の生活アンケートにより、いじめの早期発見・早期対応に努める。	②アセス「6領域学校環境適応感尺度」 【友人サポート】60を維持【向社会的スキル】58 ②学校評価質問紙での肯定的回答の割合 【児童】ア「友だちを大切にし仲良く生活している」97%を維持 【児童】イ「 友だちはよいところを認めてくれる」〔新設〕85% 【児童】ウ「自分にはよいところがある」85% 【保護者】「学校は児童が互いに認め合う学校・学級づくりに取り組んでいる」93% ③いじめの早期解決（3か月以内）：100%	②アセス(7月) 【友人サポート】 59.8 前年比 0.8P↓△ 【向社会的スキル】 57.0 前年比 2.6P↓△ ②学校評価質問紙(7月) 【児童】ア 97.3% 〇 R4後期比 0.2%↓ 【児童】イ 89.1%〇(新設) 【児童】ウ 86.4%〇 R4後期比 0.7%↑ 【保護者】 95.1%〇 R4後期比 0.7%↑ ③ 4月、7月発生事案2件 100%	B	・アセスについての研修、結果の分析を行い、個々の児童や学級の状況の把握の一助とし、児童理解や学級経営の充実に繋げる。 ・「SEL取組チェック表」で、各担任が計画的にSEL(社会的なスキルを身に付ける学習)やPBIS(ポジティブな行動介入と支援)に取り組めているかの確認を確実に行う。SELは年に10回以上行い、具体的な場面でどのように行動したらよいかを学べるようにする。PBISについては、望ましい行動をしている児童に渡す「きらめきカード」を全児童に学期に1枚以上渡せるように、全職員で取り組む。	②アセス 2月実施 ②学校評価質問紙(12月) 【児童】ア 97.1% 〇 R5前期比 0.2%↓ 【児童】イ 91.8%〇 R5前期比 2.7%↑ 【児童】ウ 85.6%〇 R5前期比 0.8%↓ 【保護者】 92.3%△ R5前期比 2.8%↓ ③ 4月、7月発生事案2件100% 11月2件、12月1件	B	・各種行事や異年齢集団活動のねらいや身に付けさせたい力を明確にし、児童が自身の成長を振り返ることを積み重ねる場を設定することで、自己存在感・自己肯定感の高揚を図る。 ・望ましい行動をしている児童に渡す「きらめきカード」を全児童に学期に1枚以上渡す取組を継続する。朝の会や帰りの会で渡す際に、担任が書いてある内容を紹介することで、善行を広める。 ・現在行っている様々なピア・サポート(行事後の感想のやりとり、なかよし掃除後のよかったところの伝え合い、上学年から下学年への学習サポート)を継続して行う。	・目標値が高いのではないか。 ・アセスが一般的ではなく分かりにくい。その数値が、よいのか悪いのかが分からない。 ・アンケートの精選が必要ではないか。保護者に、学校は児童が互いに認め合う学校・学級づくりに取り組んでいるかを聞いても自分の子どものことしか分からない。感情に左右される部分も大きいのではないか。
2 めあてをもってがんばる児童の育成	④主体的に学ぶ児童を育成する。	④算数科質問紙の肯定的回答の割合 【児童】エ「自分の解き方や考え方をタブレットを使って(低・中)分かりやすく(高)根拠を明らかにしながら、説明できる」〔新設〕80% 【児童】オ「タブレットを使いながら説明してもらうと、相手の考えがよく分かる」〔新設〕80% ④学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】カ「進んで話し合う・発表する」80% 【児童】キ「進んでタブレットを使って学んでいる」〔新設〕80% 【児童】ク「自分の考えや思いを分かりやすく伝える」〔新設〕80%	④算数科質問紙の肯定的回答の割合 【児童】エ(2年)80% (3年)70% (4年)68% (5年)75% (6年)74% △(新設) 【児童】オ(2年)80% (3年)91% (4年)92% (5年)81% (6年)91% 〇(新設) ④学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】カ69.4%△ R4後期比 9.2%↓ 【児童】キ94.1%〇(新設) 【児童】ク79.7%△(新設)	C	・協同学習の進め方について、机の付け方・話の聞き方等の校内の統一ルールを徹底することで、どんな特性をもった児童も安心して自分の意見を伝えることができる場の設定を行う。 ・タブレットを用いての対話的活動をどのように行うことが有効か、実践を積み重ねる。 ・SELで話の「正しい聞き方」「上手な聞き方」等、スキルとして学び、日々の授業やピア・サポート(異校種・異年齢交流等を通じたサポート活動)で活用していくことにより、よりよい話の受け手を育てる。 ・対話の礎となる、問い返しの技術力を教師が付けるために、研究授業等の授業参観を積極的に行う。	④算数科質問紙の肯定的回答の割合 【児童】エ (1年)91% (2年)71%(3年)93% (4年)84%(5年)77% (6年)80% △(新設) 【児童】オ (1年)96% (2年)83%(3年)96% (4年)95%(5年)93% (6年)96% 〇(新設) ④学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】カ77.5%△ R5前期比 8.1%↑ 【児童】キ95.6%〇 R5前期比 1.5%↑ 【児童】ク83.6%〇 R5前期比 3.9%↑	B	・目標値に達しない学年もあったが、タブレットを使って説明することに関してほぼどの学年も順調に数値が上がってきているので、次年度も引き続き、タブレットを用いての対話的活動をどのように行うことが有効か、実践を積み重ねる。 ・算数科だけでなく、他教科でも単元の中でより効果的な話合い場面を探り、話合いの目的を明確に示すことで、児童が話し合った意義を感じられる授業を行うことができるように校内研修の計画を立案する。 ・研究授業等で実践していたよい話合いの方法を研究主任がまとめ、校内研修で扱うことで各自の実践に生かせるようにする。 ・授業で協同学習を多く取り入れる。有意義な協同学習を行うために、学級の受容的雰囲気づくりに努める。	・達成基準の数値に達していなくても、上昇傾向にあればBにしてもいいのではないか。 ・学年ごとの集計で、達成基準に達していない学年があっても、全校での集計で達していれば、Bでいいのではないか。
	⑤目標をもって運動に取り組む児童を育成する。	⑤学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】ケ「目標をもって運動」85% 【児童】コ「進んで外遊び」80%	【児童】ケ 88.0%〇 R4後期比 3.2%↑ 【児童】コ 80.0%〇 R4後期比 3.4%↑	A	・サーキットトレーニングや「生活・家読・運動チャレンジカード」の15分運動について、体育主任が継続して取組方等を知らせることで運動に対する意識を高める。	【児童】ケ 89.2%〇 R5前期比 1.2%↑ 【児童】コ 83.2%〇 R5前期比 3.2%↑	A	・次年度も「生活・家読・運動チャレンジカード」の15分運動については、運動委員が撮った動画を全校児童が視聴することで、取り組みやすくする。新体力テストで県平均を下回っている能力を高める運動を中心に内容を考え、マンネリ化しないように内容を変更していく。	・自己評価は適切である。
	⑥「ねらい」と「身に付けさせたい力」を明確に示すことで、主体的に行事に取り組む児童を育成する。	⑥学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】「めあてをもって行事」〔新設〕90% 【教職員】「主体的に行事に取り組む児童の育成」〔新設〕90%	⑥学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】「めあてをもって行事」88.2%△〔新設〕 【教職員】「主体的に行事に取り組む児童の育成」94.9%〇〔新設〕	C	・学習発表会に向けて、児童がめあてを立て、練習の始め・途中・発表会後の3回、めあての達成度を自己評価することで、自分自身の伸びを自覚し、自己肯定感を高められるようにする。	⑥学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】「めあてをもって行事」92.3%〇 R5前期比4.1%↑ 【教職員】「主体的に行事に取り組む児童の育成」95.6%〇R5前期比0.7%↑	A	・児童会活動であるなかよしフェスティバルでも振り返りシートを用いて振り返ることで、自分の頑張りを自覚することができるようにする。 ・6年生を送る会でも、5年生の実行委員を中心に主体的に会の準備・進行ができるようにする。	・自己評価は適切である。 ・中間期のCからAに変化したのがすばらしい。取組の成果が出ている。
3 地域とともにある学校づくり	⑦地域の豊富な学習素材の活用や地域の人と結びついたキャリア教育の推進により、郷土を愛する児童を育成する。（総社を愛す子供）	⑦学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【児童】サ「地域が好き」93% シ「夢や目標をもっている」90% 【保護者】「夢や目標について話す」80% 【教職員】「意義を理解しキャリア教育を進める」90%	【児童】サ95.3%〇 R4後期比 0.9%↑ シ89.8%△ R4後期比 0.4%↑ 【保護者】75.4%△ R4後期比 6.6%↓ 【教職員】90.5%〇 R4後期比 9.5%↓	C	・現在進めている教育活動の中に「指導者がキャリア教育の視点を取り入れること」が定着するよう、担当者によるミニ研修の継続、「キャリア教育通信」の発行等行う。 ・家庭でも夢や目標について話す場面ができるように、学校だよりや学年だより、ホームページの「子どもたちの様子」の中にキャリア教育に関する内容を載せる。 ・中央廊下にキャリア教育に関するコーナーを設置することで、児童が他学年のキャリア教育の取組を知ったり、職業紹介の記事を見て、様々な職種について関心を高めたりできるようにする。また、来校した保護者や地域の方に本校のキャリア教育の実践を伝える場として,今後も活用していく。	【児童】サ94.1%〇 R5前期比 1.2%↓ シ90.9%〇 R5前期比 1.1%↑ 【保護者】80.5%〇 R5前期比 5.1%↑ 【教職員】90.5%〇 R5前期比 →	A	・キャリア教育に関するミニ研修等でキーワードや重要な言葉を教職員で共有することで、意識を高める。 ・今年度の担任で、総合的な学習の時間の年間計画を2月中に作成する。その際、地域の学習素材をどこで活用するか、地域の人と結び付いたキャリア教育をいつ行うか等考えながら作成する。 ・今年度は、6年生の総合的な学習の時間に職業について調べ、自分の将来に向けて考える学習を行うにあたって、仕事について話をする16名のボランティアの方が話をしに来てくださり、有意義な活動ができた。次年度も継続したい。	・自己評価は適切である。
	⑧学校支援ボランティアを積極的・効果的に活用していくとともに、児童との交流の場や感謝を伝える場の設定をする。	⑧学校評価質問紙の肯定的回答の割合 【保護者】「学校は学校支援ボランティアを積極的・効果的に活用している」90% 学校支援ボランティア活動実績報告（年度末）学習支援・環境整備の参加ボランティア人数（のべ人数）が180人	【保護者】95.1%〇 R4後期比 0.7%↑ 学習支援・環境整備の参加ボランティア人数(のべ人数) 138人(10月31日現在)	B	・3月までに授業における学習支援ボランティアを、1・2年算数・生活科、3年図工、4年音楽・図工、5・6年家庭科、6年総合学習で活用していく。 ・6月に学校支援ボランティア募集の案内と同時に、学習支援ボランティアの年間活動計画表を地域に配布したこともあり、新規ボランティアの登録者数が17人増えた。	【保護者】93.7%〇 R5前期比 1.4%↓ 学習支援・環境整備の参加ボランティア人数(のべ人数) 168人(1月31日現在)	A	・6月末に東小学区全戸に配付しているPTA会報「ひろば」に、学校支援ボランティア活動についての記事を掲載することで、活動内容を広く知ってもらうことに繋がったと思う。次年度も、学校便りやホームページ、PTA会報等で活動の様子やボランティアの方への感謝の思いを伝えていきたい。 ・活動後にボランティアの方に手紙を書くことで、自分が地域の人々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができるようにする。	・自己評価は適切である。